

◆第2分科会 演題『生物多様性・命の繋がり』

講師 環境省九州地方環境事務所長 塚本瑞天氏

於 3110講義室

生物の多様性が必要なことについて講演が行われました。

生態系の多様性とは

①生態系の多様性

いろんな生き物がいろんな場所で生きていくことと思つてください。生き物は、ただ一つ、一種では生きていません。植物や動物が一緒に生きて、それぞれ環境に適応して生きています。

②種間の多様性

現在の種の数は、175万種と言われています。多くの生き物はお互いに関係し合って生きています。

③種内の多様性

各種の中での遺伝子の違いも

生物多様性の一つです。人間でも顔たちが違うなど、種の中でも違います。

生物多様性はなぜ必要なのか

①酸素の供給源

②気候の安定をもたらす

③有用性の源(食料・薬の原料等など)

生物多様性はどうなっているのか

①人間活動によって自然が改変されています。

②里山に入らなくなっています。

③外来種が拡がっています。

④地球温暖化が進んでいます。

このようなことから、種がダメージを受け、絶滅する種も出てきています。

◆第3分科会 演題『身を守るための現状と予防対策』

於 50周年記念館

講師 熊本県警 生活安全企画課長補佐 今村義彦氏

県下の犯罪は17,000件前後で、多いのは自転車、オートバイ、自動車の盗難、空き巣。最近増えているのが振り込め詐欺のことです。今年県内で39件発生しており、被害総額は8600万円によるようです。

また、熊本でも幼児がまきこまれる事件があり、子どもを守るために、周囲の大人の見守りと、子ども自身も「声をかけられたら歩下がって警戒をする」ということを教える必要があることです。

子どもに対する声かけは、毎日おきています。付きまといや痴漢行為、強制わいせつなどを含めた性犯罪の前兆と見られるような声

かけ事案の警察への通報は、増加傾向にあるようです。

(熊本市PTA研究大会報告書から抜粋)



「身を守るため」の講演された今村氏



（熊本市PTA研究大会報告書から抜粋）

熊本市PTA協議会 ソフトバレーボール大会

(麻生田小 福本 美春)



今大会に向け、優勝を目指して練習をしてきた学校、楽しく練習をしてきた学校、今回初参加という学校、それぞれのチームが一丸となり頑張りました。

「珍プレー」「好プレー」続出で、皆さんの喜ぶ姿はまるで子どもの様。選手をはじめ、先生方、応援に来ました。

結果も大切ですが、皆が一つとなり頑張ったことが一番大切で、同じ学校に通う子どもを持つ親同士、頼りあえる仲間との「絆」が深まつたようです。

P災・安互の財団法人熊本県PTA災害見舞金安全会は平成25年4月1日から一般財団法人熊本県PTA教育振興財団（仮称）として再出発！

P災・安互はそれぞれに昭和50年度、昭和51年度に発足して以来、学校や保護者の皆様とともに児童生徒の健全育成と体育・文化・スポーツ活動の振興に寄与されています。

平成18年の新保険業法の施行、さらに平成22年5月の「PTA・青少年教育団体共済法」の可決成立を経て、財団が引き継いでいるPTA災害見舞金給付制度は、財団の一般法人化に併せて「PTA・青少年教育団体共済法」にそったものに改正する必要が生じ、平成25年4月の一般法人化（仮称：一般財団法人熊本県PTA教育振興財団）により、見舞金給付制度も新しい共済制度として再出発されます。

現在の熊本県PTA災害見舞金安全会の見舞金事業は、共済事業として引き継がれることになります。「仮称：熊本県PTA共済」

PTA災害見舞金制度 ⇒ P災コース

安全互助会見舞金制度 ⇒ 安互コース

詳しくは、後日各学校に配付予定される「P災だより」をお読みください。



